# リンナイ株式会社　沿革と事業内容

株式会社ヤガミ
代表取締役社長　小林啓介

| | | |
|---|---|---|
| 商号 | ： | リンナイ株式会社 |
| 本社所在地 | ： | 愛知県名古屋市中川区福住町2-26 |
| 創業 | ： | 1920年9月1日 |
| 設立 | ： | 1950年9月2日 |
| 代表者 | ： | 内藤 明人 会長　、内藤 弘康 社長 |
| 主要事業 | ： | 熱エネルギー機器の開発・製造・販売 |
| グループ会社 | ： | 44社（国内15社、海外29社） |
| 従業員数 | ： | ［連結］9,940名　［単体］3,579名　（2016年3月31日現在） |

経営指標　［連結］（2016年3月期）

| | | |
|---|---|---|
| 売上高 | ： | 3,199億円 |
| 営業利益 | ： | 345億円 |
| 経常利益 | ： | 358億円 |
| 純利益 | ： | 227億円 |

【会社HPより】



日本ナレッジ・マネジメント学会東海部会 All Right Reserved.

【沿革】

大正９年９月に故内藤秀次郎と故林 謙吉の両名により「林内商会」を創設しガス、石油器具の製造販売を開始し、大正12年からは全国ガス会社への納入及び輸出を行い、昭和25年９月２日同商会を株式会社に改組。

| | |
|---|---|
| 昭和25年９月 | 名古屋市中川区福住町において各種燃焼器具の製造販売を目的として株式会社林内製作所を資本金100万円で設立 |
| 昭和29年９月 | 東京営業所（現・関東支社）を開設 |
| 昭和33年12月 | シュバンク社（独）と技術提携し赤外線ガスバーナーを製造販売、この応用によりガスストーブ他、各種焼物器を開発 |
| 昭和35年12月 | 愛知県尾張旭市に旭工場を新設 |
| 昭和39年10月 | 愛知県丹羽郡大口町に大口工場を新設 |
| 昭和42年９月 | 愛知県丹羽郡大口町に技術センターを新設 |
| 昭和46年１月 | アール・ビー・コントロールズ㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 昭和46年11月 | オーストラリアにリンナイオーストラリア㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 昭和49年１月 | 大韓民国にリンナイコリア㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 昭和49年７月 | 米国にリンナイアメリカ㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 昭和54年10月 | リンナイ精機㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 昭和54年11月 | 名古屋証券取引所（市場第二部）に上場 |

【沿革は有報より】

| | |
|---|---|
| 昭和54年12月 | 愛知県瀬戸市に瀬戸工場を新設 |
| 昭和57年９月 | ㈱柳澤製作所（現・連結子会社）に出資 |
| 昭和58年４月 | 磯村機器㈱（現・連結子会社　リンナイテクニカ㈱）に出資 |
| 昭和58年９月 | 東京証券取引所・名古屋証券取引所市場第一部に指定 |
| 昭和63年３月 | インドネシアにリンナイインドネシア㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 平成５年９月 | 中華人民共和国に上海林内有限公司（現・連結子会社）を設立 |
| 平成11年４月 | ㈱ガスター（現・持分法適用関連会社）と給湯機器の開発、生産、営業、メンテナンスの分野において業務提携 |
| 平成11年４月 | アール・ジー㈱（現・連結子会社）を設立 |
| 平成12年２月 | 高効率コンデンシングガス給湯器で省エネ大賞（通商産業大臣賞）を受賞 |
| 平成20年９月 | 米国においてガス瞬間式給湯器が、米国のASE（米国の省エネ推進機構）より「スーパー ノバスター アウォード（エネルギー効率大賞）」を受賞 |
| 平成22年３月 | 愛知県小牧市に生産技術センターを新設 |
| 平成25年５月 | 愛知県瀬戸市に暁工場を新設 |
| 平成26年１月 | ハイブリッド給湯・暖房システム「ECO　ONE（エコワン）」で省エネ大賞（経済産業大臣賞）を受賞 |

【沿革は有報より】

日本ナレッジ・マネジメント学会東海部会 All Right Reserved.

昭和33年12月　シュバンク社（独）と技術提携し赤外線ガスバーナーを製造販売、この応用によりガスストーブ他、各種焼物器を開発

⇒　名古屋商工会議所の欧州視察団に参加。

ドイツのシュバンク博士の話は、“目から鱗”の内容だった。

画期的な「シュバンクバーナー」との出会い、提携の申し入れ。

特許使用料2億円。当時の年商6億円。社運を賭ける大英断。翌年は年商12億円、その翌年は24億円と倍々で増え、予定より早く支払い。

この提携は、その後の事業拡大に大きな成果を出すと共に、海外のトップメーカーと情報交換を行うことで世界的視野での経営に繋がった。

昭和46年1月　アール・ビー・コントロールズ㈱（現・連結子会社）を設立

⇒電気がガスを電子制御する時代を先取りし、ガス機器用コントロールシステムの開発に乗り出す。早い段階でガス関連企業でありながら電子制御の内製化に取組。

昭和54年10月　リンナイ精機㈱（現・連結子会社）を設立

⇒部品加工会社を充実することでハイテク技術の研鑽と品質向上を目指す。

⇒同業他社と比較して自社開発に重点を置き、コア技術は社内に。

⇒他社との差別化が可能となり、業界初やコスト競争力の向上につながる。

日本ナレッジ・マネジメント学会東海部会 All Right Reserved.

昭和46年11月　オーストラリアにリンナイオーストラリア㈱（現・連結子会社）を設立

昭和49年１月　大韓民国にリンナイコリア㈱（現・連結子会社）を設立

昭和49年７月　米国にリンナイアメリカ㈱（現・連結子会社）を設立

昭和63年３月　インドネシアにリンナイインドネシア㈱（現・連結子会社）を設立

平成５年９月　中華人民共和国に上海林内有限公司（現・連結子会社）を設立

⇒　シュバンク社との関係でグローバルな視点。

当時から海外に通用する技術力あり。

コア技術の内製化で、それぞれの国独自の環境に適用した開発が可能。

開発の現地化推進。各国に合った商品をスピード開発。ただしコアは日本。

ガス関連は、各国でニーズや環境が違うので、世界統一の商品開発や生産が難しく、リンナイの規模でもグローバル競争で優位を保てる。

ガス機器業界のなかで早くに海外進出。現在、売上の約50%弱が海外。

日本のガス機器メーカーの中では突出したグローバル企業。

平成26年１月　ハイブリッド給湯・暖房システム「ECO　ONE（エコワン）」で省エネ大賞（経済産業大臣賞）を受賞

⇒　開発型企業。品質に加え、商品力もリンナイ。

コア技術の自社開発にこだわり。

高い技術力から可能となった技術志向の商品開発。単なるニーズ収集からの小さい飛躍に留まらない、他社にない商品力。また、競合他社が簡単にまねできない商品に。

開発型企業、リンナイさんの製品の歴史を振り返ってしましょう

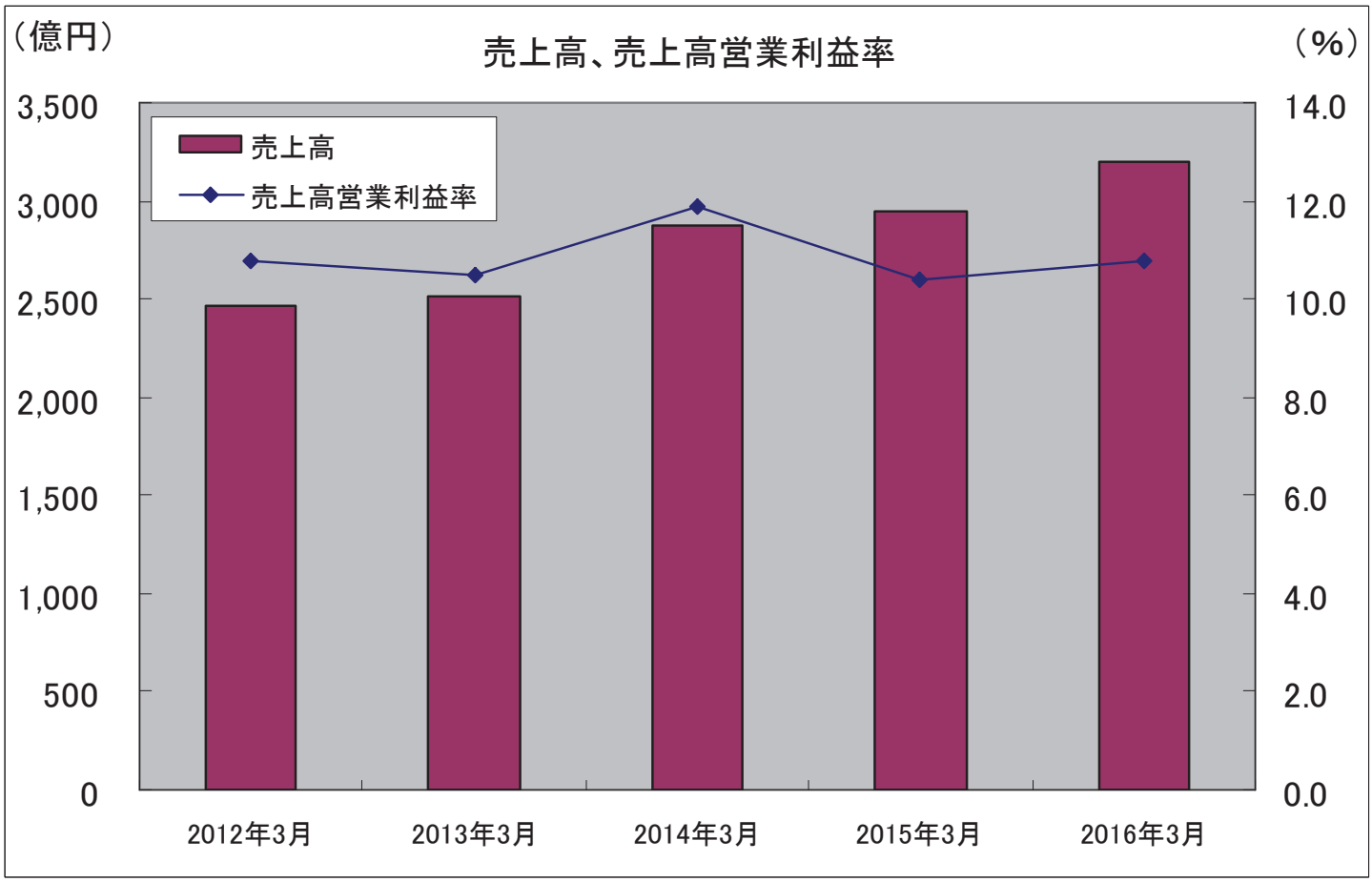
日本ナレッジ・マネジメント学会東海部会 All Right Reserved.

2016年9月12日
研究成果発表
「リンナイ株式会社」

【会社案内より】

【会社案内より】

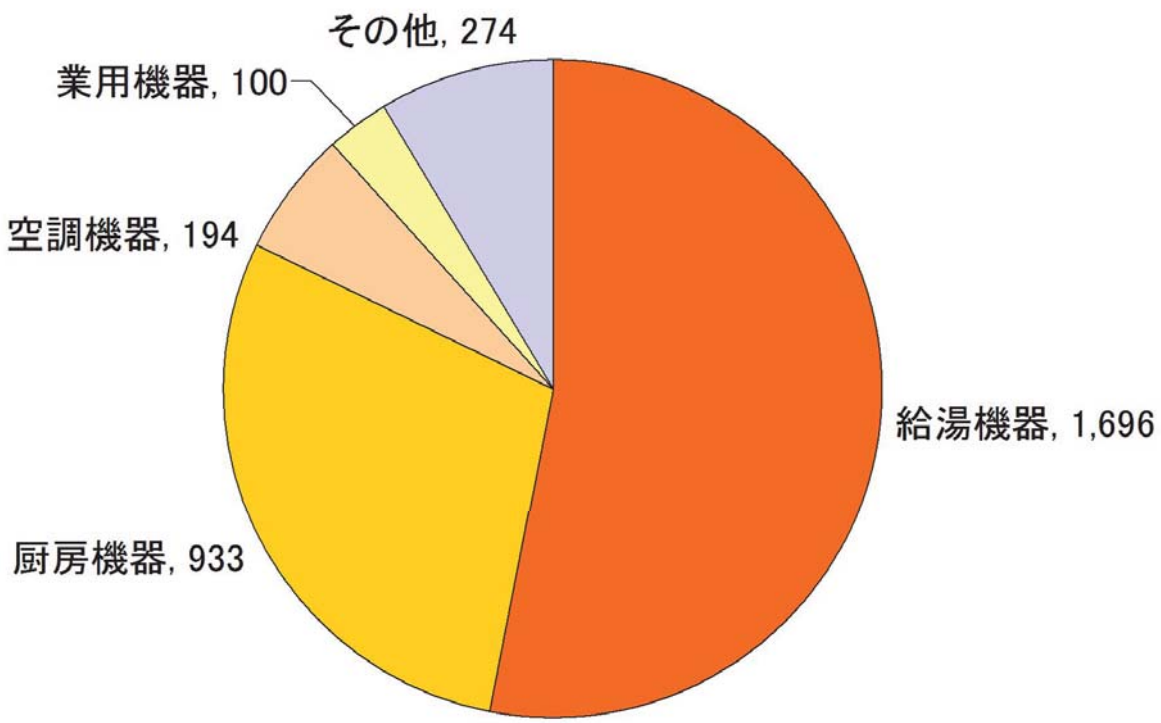

All Right Reserved.




【会社HPより】

## 機器別売上割合

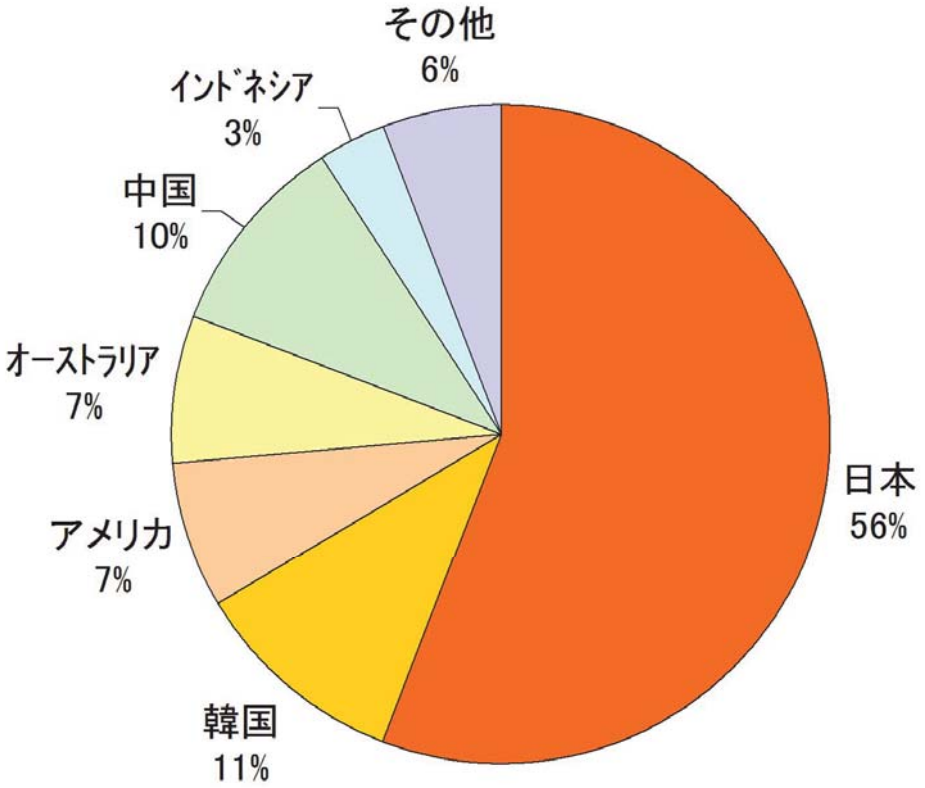
単位：億円




【会社HPより】

日本ナレッジ・マネジメント学会東海部会 All Right Reserved.

## 地域別売上割合




【ｾｸﾞﾒﾝﾄ情報より】

## まとめ

・独　シュバンク社との提携がその後のリンナイに大きく影響

・グループ一丸で重要部品を製造。コア技術は社内に。高い品質とコスト競争力。

・世界と戦うグローバル企業。地場に根付いた開発と販売。

・技術開発型企業。グローバルのガス機器業界をリードする開発力。

日本ナレッジ・マネジメント学会東海部会 All Right Reserved.